

ふくしま

再生 短信

2020/12/10 田尾陽一『飯館村からの挑戦—自然との共生をめざして』上梓

共生への限りない問いの始まり
❖ 道なき道へ ❖

2021年2月21日午前、飯館村在住・田尾陽一さんの近著『飯館村からの挑戦—自然との共生をめざして』（筑摩書房2020、以下本書）にある散策に同行。（中央囲み記事）



2011

2011年6月6日、一行16名は津波の瓦礫で埋まる松川浦から全村避難の飯館村・菅野宗夫さん宅へ。例年は田植を終え緑と水の絨毯で覆われる田圃は村中一面土色の乾いた荒野と化していた。「・・・この状況では私たちにできることはないだろうという考えが私の頭をよぎり表情に現れた。その疑問にすぐ反応した宗夫さんは、このメンバーが今後来村するなら、避難先から・・・村に戻り・・・その場で協働することを確認した。ふくしま再生の会の誕生の瞬間だった。」（本書、059-060頁）

2012年5月、荒野の再



2012

生に向けた試験栽培は田尾さんの熱意と機敏な行動が幾多の綱渡りの協力を呼び、農水省・農研機構との協働の形で第一歩へ。「・・・除染と試験栽培を切り離すという私の提案で研究協定内容の合意が得られた」（本書、154頁）

2013年4月1日早暁、村民の心の故郷・山津見神社焼失、宮司夫人が犠牲に。

「・・・失われた山津見神社の貴重な狼の絵の復興プロジェクト・・・東京藝術大学大学院文化財保存学の荒井経先生の指導のもと・・・本格的修復が行われ、2016年10月新拝殿の天井に取り付けられた。」（本書、026-027頁）

2014年「・・・8月頃、スズキエブリイ2台を、本会の横田捷宏（かつひろ）監事の知人であるスズキ自動車鈴木修会長の一声で安く手に入れ・・・KEKが提供してく

れた・・・放射線測定装置を搭載して専用測定装置を開発・・・2020年3月まで・・・各行政区から村民2人、総勢40人が、ふくしま再生の会やいいたて協働社のサポートで・・・測定を続けた。」（本書、119-120頁）



2014-2020

2016年10月23日第13回の活動報告会「これから5年飯館村村民の思い」菅野榮子さん「・・・あの美しい村の再生に老いの身ながら、第1歩を踏み出した。・・・今、その希望の一点を見出すことができました。よっちゃん（菅野芳子さん）と一緒に帰ります（拍手）」（本書、253-254頁）



2016

「私たちは、本会設立の時から健康医療ケアは飯館村にとって最重要課題だと考え・・・

仮設住宅で、定期的健康医療ケアサポートを実施・・・」（本書、272-275頁）

2019年5月19日に全国より北川フラムさんが率いる総勢19名が・・・飯館村へ向かった。「・・・昨年（2018年）は、バスを仕立てて1泊2日で大地の芸術祭（新潟越後妻有）を飯館村の人々にみてもらった。・・・石巻や新潟の大地の芸術祭のつながりで複数のサポート活動を行ってきた。・・・アートの方で人に生きる勇気



2016



2018

を与えていることが垣間見えた。」（本書、289-291頁）

自然の中で人間の新しい生き方を創る

「・・・コロナ時代に新しい魅力的な生活のあり方を創造するために、私はこれまでの活動を内包して新しい戦略的なコンセプトを考えてきた。・・・佐須地域に「風と土の家」が建設され（2019年）・・・隣に「学び舎irori」が建設され、2020年10月4日・・・竣工式が盛大に行われた」（本書、283-287頁）



2019

散策の帰路ふと遠望すると木立の間から未来を開く空間群が現れた。KEKと

の協働に尽力され遺贈により建設事業に多大な貢献をされた故清水韶光さん（物理学者、1942～2015）（本書、287頁）の笑顔が想い起された。



2021

「私が・・・最後に言いたいことは・・・田中正造翁が100年前に一身をなげうって主張した「山を荒らさず 川を荒らさず 村を破らず、人を殺さざる」真の文明へ、一步でも具体的に近づく努力をしていくこと。それが21世紀の私たちの道ではないか・・・」（本書、346頁）（撮影・文責：若林一平）